

ふれあい

主な内容

- 小学校春季大運動会 1P
- 地域運営から1年 1P
- 総会報告 2P
- 1中コミセン管理運営に関する経費内訳 2P
- あれやこれや / 私のたのしみ 3P
- 地域のわだい 3P
- 地元の歴史/心に残る思い出 4P
- ボランティア紹介/部会だより 4P

●発行所/ひたちなか市長堀町 3-4-1 (1中地区コミュニティセンター内) 電話 029-275-2671 ●発行責任者/大和田 敬治 ●編集/広報委員会



長堀小



東石川小



輝いた子どもたち! 小学校春季大運動会

心地よい五月晴れの下、運動会が開催されました。残暑が厳しい中での練習は児童の体への負担が大きい、という判断で春に行うことになり、一中地区の小学校は今年で3年目になります。

今年も熱中症で具合が悪くなる児童もなく、みんな元気に運動会を楽しみました。

(長堀小学校長 久野勝敬)



勝倉小



三反田小



中根小



地域運営から1年



一中地区地域の
ふれあいを広める会
副会長 坂井 久彦

コミュニティ組織「一中地区地域のふれあいを広める会」による1中地区コミュニティセンターの地域運営が昨年四月から実施され、一年が過ぎました。

センター関係者による行政との密接な協議および地域の方々の理解と協力により、順調に運営されています。この地域運営の目的は、地域づくりの拠点・生涯学習の場として、より利用し易く、より親しまれ、住民が集う施設になることです。また、施設を地域住民に委ねることにより「市民と行政による協働のまちづくり」(市条例)の推進を図るものです。これまで以上に地域づくりの拠点としての機能を高めていくためには、施設利用者や地域住民の声をできるだけ尊重し、迅速で柔軟な利用ができる体制とする予定です。

地域の方々とセンター職員の努力により、七夕飾り・グリーンカーテン・ペットボトルリサイクルなど季節行事が実施され、心と和らぐ地域運営への移行を感じます。今後とも利用し易く、愛される施設を目指し、心から満足できるよう更なる充実を図ってまいりますので、気軽に利用していただくようお願いいたします。



平成25年度 一中地区地域のふれあいを広める会 総会報告

4月21日、一中地区コミュニティセンターで、市長はじめ多くの来賓を迎え、代議員・役員など101人が出席し、平成25年度定期総会が開催され、審議したすべての案件は、専断通り可決されました。

また、永年にわたりコミュニティ活動に貢献された副会長の下村 修氏（東中根団地自治会長）、理事の七瀬健夫氏（松戸自治会長）、同じく理事の住谷勝己氏（勝倉自治会長）が退任され感謝状が贈呈されました。

一中地区地域のふれあいを広める会（本会）

顧問 萩谷 寛・寺山 一郎・下村 修
会長 大和田敬治
副会長 遠藤 良子
副会長 坂井 久彦
副会長 原 健三

理事 13自治会長・3委員長・6部会長
監事 安 次男・大内 勝利
事務局 川島 博・伊藤 昭子・菊池 喜代子

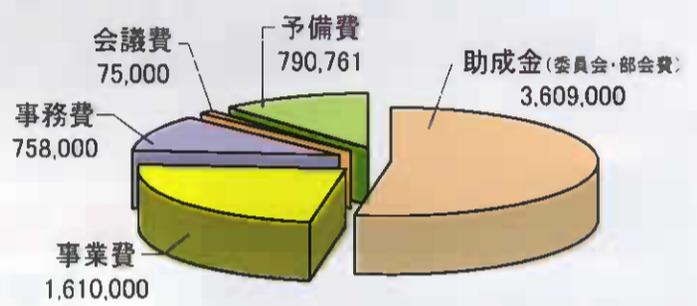
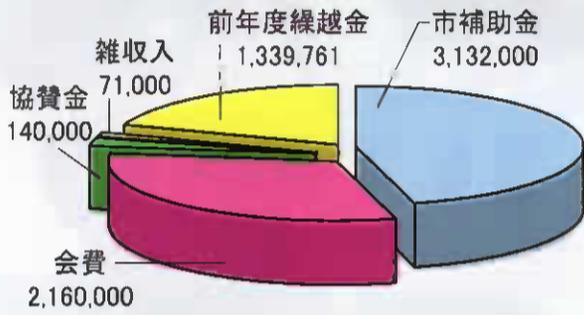
事業 4/21 総会
10/13 一中地区秋季大運動会
10/17・18 理事視察研修
11/16・17 コミュニティまつり

本会予算 ¥3,233,761
2/22 芸能音楽祭
随時 ひたちなか市コミュニティ組織
随時 各種会議・ホームページ運営など

歳入 6,842,761

平成25年度歳入・歳出予算（単位：円）

歳出 6,842,761



地域部委員会（13自治会長）	事業費 ¥40,000
委員長 坂井 久彦	
事業 10/17・18 理事研修会	
11/16・17 コミュニティまつり	
4月～随時 まちづくり市民会議・委員会など	

実践部委員会（6部会長）	事業費 ¥80,000
委員長 遠藤 良子	
事業 11/16・17 コミュニティまつり	
未定 講演会（合同事業主催）	
随時 委員会など	

広報委員会	事業費 ¥819,000
委員長 大関 清見	
事業 広報紙（ふれあい）年3回発行	
9月 コミュニティまつりチラシ作成	
随時 取材・編集	

体育部会	事業費 ¥715,000
部会長 近藤 保夫	
事業 4/14 第37回ソフトボール大会	
6/8 第10回三世交流レクリエーション大会	
7/14 第9回ファミリーバトミントン大会	
10/13 第19回一中地区秋季大運動会	
10/27 第3回ヘルスパレーボール大会	
3/12 第15回ゴルフ大会	

安全防災部会	事業費 ¥285,000
部会長 安 正機	
事業 7/2 視察研修	
7月 交通事故防止啓発活動	
8月 安全教室（講習会）	
11月 交通事故防止啓発活動	

環境部会	事業費 ¥445,000
部会長 西野 治	
事業 5・10月 地区内環境巡視・地域内美化活動	
6・7・12月 地区内清掃	
6/12 自然環境に親しむ会(三世交流)	
7/2 生ゴミ処理講習会	
11/20 行政施設見学会	

文化部会	事業費 ¥440,000
部会長 盛口 祥子	
事業 6/6 移動研修会	
10/26 コンサート「朗読とシンセサイザーのコラボ」	
10月 コミュニティまつり展示・企画	
2月 芸能音楽祭企画実施	

青少年部会	事業費 ¥476,000
部会長 岡田 栄子	
事業 7/6 親子クリーン作戦	
7/12 少年の主張大会	
7/27 三世ふれあいチャレンジ教室	
1/11 まゆ玉づくり	
2/1 親子ふれあいスキー	

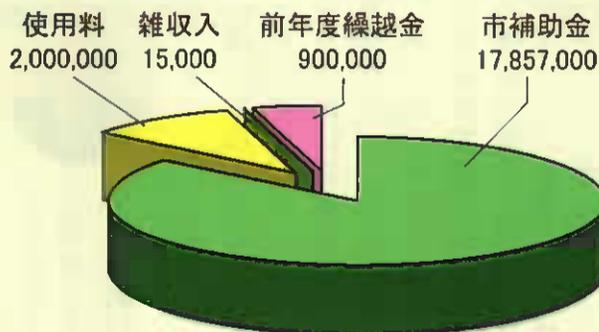
福祉部会	事業費 ¥330,000
部会長 遠藤 良子	
事業 6/16 子育てサロン（パパも参加）	
6/20 視察研修 9/3 ふれあいの旅	
月1回 子育てサロン・1中コミセン	
金上自治会館・中根集落センター	
月1回 グループホーム「そよ風」訪問	
月2回 特養老人ホーム「はまぎくの里」訪問	

※各委員会・部会の事業費は本会からの助成費と、その他の事業費を含めた総事業費を記載しています。
※自治会ごとの事業内容は、各自治会からのご案内をご覧ください。なお、各自治会長は以下の通りです。
山田 俊(中根) 坂井 久彦(大成町) 重田 政之(西中根) 桑原 武夫(長堀松戸) 川内 勝夫(三反田) 権瓶 宏(大平) 清水 進(金上)
大島 吉美(富士山) 尾曲 六郎(駅前南) 佐藤 定男(薬師台) 武石 利文(勝倉) 原 健三(笹野) 伊野 昂(東中根団地)

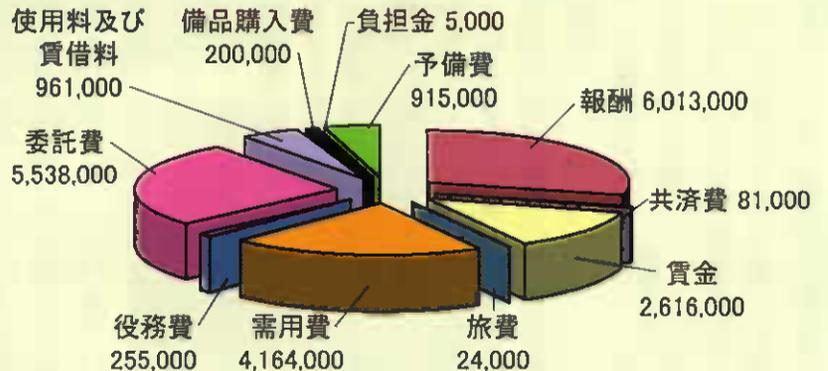
I 一中地区コミュニティセンター管理運営に関する経費内訳

平成25年度コミュニティセンターの管理運営に関する予算内訳は下図の通りです。

収入予算 合計 20,772,000



支出予算 合計 20,772,000



※ホームページを開設 検索の仕方は「1中ふれあいを広める会」です。

私のたのしみ

水墨画をたのしむ

大内 守さん



西中根にお住まいの大内守さん(77)に、趣味の水墨画についてお話を伺いました。お部屋には、大きな額に飾られた作品や色紙に描かれた作品・多数の筆・水墨画の本などが置いてありました。

横浜で船に乗る仕事をしていた大内さんは、定年になって自宅に戻り何かしようと考えていたときに、書道をやっている娘さんに「昔から絵が好きだったから、水墨画をやってみたら」と勧められ、一中コミセンの水墨画の講座「勝田墨遊会」に入りました。それから17年、シルバー人材センターの仕事もしながら水墨画を続けてこれ、平成20年には日中水墨画合同展で優秀賞を受賞するまでになりました。「筆と墨があれば簡単にできると始めたが、和紙や額も必要だし。余白を生かし、墨で濃淡を付けながら、遠近を出すのが一番難しい。濃くし過ぎたら戻せないから失敗だね」また「作品が出来上がった時が一番嬉しい。達成感が最高だよ」と笑顔で話してくれました。

手先の器用な大内さんは、水墨画の作品(和紙)の裏打ちも、自分で行うそうです。「先生に教わって、何回も失敗しながら身に付けたよ。失敗しないと身に着かないからね」と、糊と水の調合する容器も見せてくれました。額も買うと高いから自分で作り、作品に押す印も大きさに合わせて石を彫って作っています。いろいろなことに挑戦する姿に感心しました。



あれや・これや...

ソフトボールに

関わって

大成町自治会

石崎 衛

何で、ソフトボール部なの？大学入学時に先輩の甘い言葉「全国大会に出場できる」と、高校のクラスマッチソフトボールで3年連続優勝した右腕を見込まれ、遊び半分で入部した。

それから何の因果か四十年、大学・クラブチーム・パパさんソフトで選手及び監督・ママさんソフトでコーチ及び監督を続けてきた。その中で十五回の全国大会と、幾多の修羅場(大袈裟!!)を経験した。

その中からひとつ、今様のサブライズをあげると、それは大学四年(昭和

和四十一年)の一般全国大会(実業団・クラブ・大学生チームなどの構成)の関東大会が、勝田市の石川グラウンドでの開催。我が大学の決勝戦の相手は、前年に続いて日本体育大学。対戦投手は、米国より導入の日本国内初のウインドミル投法(今後各チーム取り入れて来るであろう新技術)で、1対1の延長の末8回裏でサヨナラ敗戦。しかし

若手農業者の集い

勝倉自治会

渡邊 敏行

私が所属している「ひたちなか市農業後継者クラブ」は、20代から40代までの若手農業者後継者約20人が活動している。主な活動内容は、夏の視察研修・秋のサツマイモ掘り体験会・産業交流フェアへの参加。その他、定例会では稲の生育状況やサツマイモの出来から農業問題まで、いろいろな意見交換を行っている。

以降ウインドミル投法が主流で、技術も向上し現在に至っている。



干しイモ・コメ・野菜・花など栽培している物はさまざまだが、普段は畑で一人黙々と作物と向き合うことが多い私たちに



同世代の人と情報交換できる機会は貴重だ。また、新規就農した方にとって、技術だけでなく地域の農業の様子を知る上でも重要な集まりだと思

う。一緒に作業をしながら、互いに工夫していることを教え合ったりする中で、技術を向上させ、さらにはいい意味でのライバル関係が、自分も頑張ろうという意識の向上につながっている。



1中コミセンでは、六月初めから1階ロビーを利用して、「七夕飾り」が設けられました。これは中根のNさんから竹の提供を受けることにも、利用団体である「折り紙教室」のメンバー手作りの短冊が来館者用に用意されました。「みんなに優しさを届けてください」など、子どもたちの願いや思いが短冊に込められていました。

1中コミセン

地域のわだい

一中学区健康づくり歩く会

長堀地区

6月2日、一中学区保健推進員による歩く会が126人参加で行われました。初めに長堀小体育館で、講師の染谷典子先生(体育学士・健康運動指導士)の指導のもと、準備運動を行い出発しました。

天候にも恵まれ、大川に泳ぐ鯉や魚釣りをしている親子を見ながら歩き、途中ライスセンター前でストレッチなどを行い、1時間30分かけて田植えの終わったあぜ道を歩きました。

体育館に戻り、ストレッチをして筋肉痛の予防・疲労回復をはかり終了。楽しい歩く会でした。



サツマイモの苗植え

中根小学校

中根小学校では「サツマイモを育てる活動を通し、勤労の尊さや生産することの喜びを体得し地域の方や異学年児童との交流を図る」ことをねらいに、6年前からサツマイモの栽培を始めたそうです。

今年も6月10日、全校児童382人が清誠雄さんから苗の植え方の説明を聞き、ときわ会のみなさんから手渡されたサツマイモの苗1人4本を、1年生は6年生と、2年生は5年生と一緒に、中根ファーム(学級園)に植えました。ひたちなか市の特産品でもあるサツマイモは、秋まで育てる子どもたちの心にも大きく育つことでしょう。



輪投げで◎ボケ◎防止

薬師台自治会

高齢者クラブ「多宝会」の輪投げ部員は、週3回薬師台集会所で練習に励んでいます。輪投げは、目で見ただけで腕の力加減が難しいです。

去年11月の高齢者クラブ連合会スポーツ大会「市長杯」で2位になったので、今年も良い成績を取れるように頑張っています。80歳を過ぎた2人の女性は、輪投げの腕も良いが点数計算の早さに、認知症も寄り付かないでしょう。また薬師台集会所では週1回の健康体操も、行っています。



地元の歴史

小場江堰用水

小場江堰用水は、明暦2年(1656)に水戸藩初代藩主徳川頼房公の命で、家臣の永田茂衛門により造られた農業用かんがい水路です。那珂川から取水し、常陸大宮市から那珂市、水戸市を経てひたちなか市の下流一帯に、農業用水を送り続け、流域に豊かな実りをもたらしてきました。



小場江 頭首工

小場江堰土地改良区発行「小場江堰用水のあゆみ」によれば、取水口は度重なる洪水によりたびたび場所を上流に移してきました。最初は、現在の那珂市下江戸地区の那珂川に江堰を築きました。しかし翌年の大洪水で壊れ、万治元年(1658)に約2km上流の小場村(現在の常陸大宮市小場)に移動。これによって小場江堰と命名されました。用水路は那珂川に平行して左岸の那珂大地のすそを流れ、小場村から三反田村(現在のひたちなか市三反田)まで約30kmに及びます。三反田までの落差はわずか16mであり、この時代にこれだけ落差の少ない勾配の用水路を建設した技術力は、今なお高い評価を受けています。

その後、昭和22年のキャサリン台風で大被害を受け、昭和25年に取水口をさらに約6km上流の、現在の常陸大宮市三美地区に移しました。繰返される修築のための負担は相当なもので、近代的な江堰を築くことが悲願でした。



勝倉 小場江用水路

昭和45年(1970)には、現在の頭首工(取水口の堰)が完成しました。鉄筋コンクリート製の恒久的な可動堰であり、より安定した送水が可能になりました。

350年以上もの歴史があり、受益農業者だけでなく一般の人々にも恵みをもたらしてくれる小場江堰用水を、後世に伝承していくことが極めて重要だと云われています。

心に残る思い出

満州からの引き上げ



大平自治会 海野 妙子 (93)

私が満州に行ったのは、昭和19年5月、24歳の時でした。知人の息子が満鉄で働いていて嫁を探していると聞き、満州は日本よりいい暮らしができると、父が勝手に結婚を決めてきてしまったのです。満州の吉林は日本人学校が何校もある大きな町で、夫との幸せな一年間でした。

昭和20年7月に長男が生まれ、8月に終戦。乳飲み子を抱えそれからが大変でした。ソ連兵が攻めて来て、若い娘が連れて行かれることもあり。すぐに日本に帰れるはずもなく、残った日本人たちは、小学校校舎に集まり共同生活。それぞれが校庭で煮炊きをし、何とか生き延びました。日本の船が迎えに来ると知らされたのは、次の年の7月。人が乗っているのを見られないようムシロをかぶせた貨物列車で、2日位かけて吉林から船が来るコロ島まで行きました。コロ島でも船が来るまで、80人位が廃屋で10日近く待たされました。みんな着の身着のままでしたが、私たち子どもを抱えた母親は、近くの川まで洗濯に何度も通いました。夏だったのが救いでした。

古い汚い船で九州の佐世保に着きそれから汽車に乗って、何日もかかってやっと中根の実家に着いたのは、昭和21年9月でした。家族3人が、何とか無事でよく帰って来られたと、今でも思います。



ボランティアグループ紹介

長堀・松戸公園美化ボランティア

長堀・松戸地域の公園をきれいにしようと、公園美化のボランティアを募集したところ、20数人の応募があり(現在29人)、昨年にボランティア団体の登録をしました。今まで市で行ってきた2ヶ所の公園の除草作業を請け負い、春と秋には花を植え花壇を整備して、いつもきれいな公園となりました。また、昨年度の「花と緑のコンクール」に応募し、優秀賞を受賞しました。

年4回の除草作業には、市所有の機械を借りて行うため、作業効率も良くいつも半日で終わり、終了後はジュースやお茶などを飲みながら楽しい話に花が咲きます。昨年の秋には、作業終了後辛煮会が行われました。周りの人々から感謝の言葉をもらって、会員の皆さんはますますハッスルしております。



部会だより

福祉部会

6月20日、筑西市の障害者支援施設「ピアしらとり」で、部会員25人が視察研修を実施した。地域と共に、地域のために目指して、手作り焼きたてパンや「さおり織り」で作った製品の販売を通して、積極的に地域の交流を深めている。年間の諸行事の説明を聞き、施設内を巡り活動の様子を見学した。



文化部会

6月6日、38人が参加してリーダー研修会を実施した。NHK大河ドラマ「八重の桜」で話題の会津若松方面へ。白虎隊で有名な「会津藩校日新館」と、「飯盛山」を見学した。その後、昔ながらの情緒を残している「七日町通り」を散策した。日新館入学前に、会津藩士の心構えを身に付けさせる「什の掟」は、今の世にこそ必要かも…。



体育部会

6月8日、六ツ野公園で、三世代交流レクリエーション大会が開催された。結果報告



安全防災部会

7月2日、39人の参加で視察研修を実施。福島県では大震災の後、復旧ができていない所がまだ数多くある。今回はいわき市の復興状況を実際に見学。改めて災害の悲惨さを痛感した。東北の物産購入などで復興の応援をしたいと思った。車中では、「もっと減らせる交通事故」のビデオ映像による研修を行った。



環境部会

環境部会では、一中地区内2つの地域を重点パトロール区域として、クリーン運動を展開している。今回(5月24日)は、勝倉集落センターから那珂川新堤防沿いを実施。従来から道路沿いを行うため、安全上には気をつけてきたが、このほどふれあいを広める会から提供していただいた黄色の安全ベストを全員着用して、無事終了した。



三反田小学校区から吉木一美さんが広報委員に就任しました。よろしくお願ひします。5月30日、新旧広報員参加によるデジカメ撮影研修を牛久・龍ヶ崎市で実施。車中では、撮影の基本であるシャッター速度・絞り・構図設定など撮影技術向上の勉強会を行いました。その成果をこれらの紙面作りに生かしていきたいです。

結果報告

- *ヘタंक 一般の部
- 優勝 西中根六美会 (虎男チーム)
- 準優勝 富士山B
- 三位 富士山A
- 家族の部
- 優勝 中根ときわ会C
- *グラントゴルフ
- 優勝 大平B
- 準優勝 東中根団地A
- 三位 金上豊寿会A